

災害派遣職員レポート

No.31 H23.6.15

陸前高田で活動している えびな北高齢者施設 原山職員より

今日はサロン立ち上げも仮設見守りも停滞していて、消化不良のような一日でした。

自分たちの裁量で動けないので、時間ももったいなくてなりません。明日は少しでも前に進みたいです。サロン開設が目前に見えているのに、自分達で見ることが出来ない焦りがありました。大丈夫です。種まきも前進ですよ。余計な心配かけて、すみませんでした…

菅原所長より

なんだか、また停滞しているようです。何が原因なのでしょう？いろいろ気づいて動きたいけど先に進めない感じが伺えます。気持ちが焦る・自分たちにはもっとできることがあるのに…って感じですね。あと少しの期間です。原山さんが思うように行動できれば良いですね。原山さんの後を引き継いで、北からは、2-4ユニットの濱口さんが行きます。濱口さんは、相談業務をしたことがないですが、被災地の状況を見て感じて考えて、自分が取れる行動を取れる人材だと思います。

陸前高田の避難所で活動している えびな北高齢者施設 志水職員より

午後、松下さん・原山さん達（全社協）が来て、少し話をして、元気そうでした。

ここでやっている事は、ユニットで、やっているような事と、送迎（支援物資と一緒に、取りに行く等）です。ただ、4人で回すから、勤務時間は長いし、変則だけど、楽しいです。

現時点では、高田一中の避難所は、（学校内は）7月末までには、学校に返す予定で、動いています。と言う事で、体育館や絆の丘の人も仮設に移動する予定だけど、絆の丘の今いる人は、ほとんど老々介助になるので不安です。

今日は、仮設に移動した人が数人来て、1時ぐらいまでお茶を飲んで行ってくれ、楽しそうにしていたので、ここの仮設の近くに憩いの場が出来て欲しいと思った。

現状、何も出来ないのが、つらいです。全社協の方で（松下さん・原山さん達）、頑張ってもらえないので今、自分が出来る事を、頑張ります。後、1日1回ぐらいは、余震があります。

菅原所長より

だんだんと、個別の生活に戻れる方向になってきています。集団の避難生活は、7月を境にどのようにしていくのか……。全員が仮設住宅ということにもならないような気配がありますね。志水さん・松下さん・原山さんが活動していることが、別の場所ですがつながっているのが良くわかります。岩手という被災地で、中心会の職員がそれぞれ関わりながら活動していることって本当にすごいことだと思うのです。

気仙沼の避難所で活動していた 中心荘 福園職員より

お疲れ様です。 今帰りのバスの中です。

ブース内に作ったテーブルは上手く活用出来たみたいです。 みなさん少しずつですが集まり始めてました。 6日目午後の写真を添付しました。

次の隊のリーダーにこれからの課題である、サロンの立ち上げ、要支援者・要介護者の把握の話をも自分の思いと一緒に伝えてきました。

この6日間という短い時間の中で全く面識の無いメンバーで最初は戸惑いでしたが、これからやって行きたい事、これだけはやりたいと思った事を積極的にアプローチし思いを伝える事が出来ました！ 今回被災地派遣に「行ってみたら？」と言葉をかけてくれた小山課長、猪股課長補佐ありがとうございました。

そして第一の介護課のみなさん行かせていただきありがとうございました！

三浦副所長より

精一杯やったという充実感が得られたと思います。 また次のリーダーへも課題をきちんと引き継いでくれました。 写真の皆さんの笑顔がいいですね！（写真に写っている方々には、HPに載せることので承は頂いているとのことです）



災害派遣職員レポート

No.3 2 H 2 3.6.2 0

陸前高田で活動している えびな北高齢者施設 原山職員より

お疲れさまです。奮闘してきたサロンがいよいよ明後日開設です。ホントに嬉しいです。

明日私達は最終日で、サロン開設はみられないのですが、竹駒仮設の皆様が明日そのテントを利用してお茶会を催すそうです。少しの時間ですが、お手伝いに伺おうと思っています。

何より、そのテントを利用して住民の方々が喜んで下さることが、私達が引き継いで頑張ってきたことの結果が出たように感じて嬉しいです。

次に引き継いでくれる2人にサロン開設を見届けてもらえれば、満足です。

こちらに来る機会を頂いて、ありがとうございました。

菅原所長より

原山さんたちチームが頑張ったサロンの開所が見られないのは残念です。でも、次のチームに引き継がれていきますからね。本日、2-4ユニットの濱口さんが盛岡に入りました。

濱口さんは、相談業務に関わったことはないですが、しっかりと地域の方々に向き合っていけると思います。

原山さんのメールからは、満足感・達成感が得られる状況で活動ができたのだなと感じます。先に行っていた渡辺さん・川村さんの苦勞がこのような結果になって現れたのです。中心会チームの力です。

理事長より

ついにサロンの開設に漕ぎつけたそうです。頑張ってくれました。いままでうまくいかないことの連続でしたが、今の原山さん、松下さん、そしてこれまで、継続して陸前高田の在宅・地域支援チームの活動に従事してくれたすべての職員の努力が結実したものです。

これに続く杉山さん(中心荘)、濱口さんが継承して、よいサロンを作ってくれると思います。

陸前高田の避難所(市立第一中学校)で活動中のえびな北高齢者施設 志水職員より

勤務時間(シフト)に慣れてきて、皆さんと打ち解け少し緊張がとれ、少し疲れて来たぐらいです。現在の人数や身体状況は、自分が絆の丘に来てからかわらず、4月頃から、ボランティアでいるSさんが(現在、フリー)、自由に動いて仮設や絆の丘から出られた人達の所を回り、様子を見に行き、絆の丘に案内して来たりして回っている。

自分が、来る前に仮設やここから出られた人がどこでどうしているか解らないし、一緒に回りたいたいと思っても、なかなか一緒に行く事が、出来なく(シフトの都合や皆さんの予定等で)、Sさんに任せている状態で、Sさんの声かけのおかげで、1日1~6人ぐらい顔出してお茶を飲んで1時間過ごされて、楽しんでいました。

話は変わるけど、西さんが来る時に、Aクイックを2本持って下さい。m(_ _)m

菅原所長より

Aクイックプロの件は了解です。西さんに依頼しますね。

仮設住宅に移っても、避難所（絆の丘）との関係は切れないですね。このまま、サロンとして残すことを提案していくことが必要に思います。中学校の教室をどこか貸していただけるように関わってみたら良いかもしれないです。（例えば、校長室が無くて良いかも・・・）

佐藤善孝さんが出勤してきました。ズーと被災地の方のそばを離れず過ごしてきたようです。身体の疲れよりも、被災地の方の心の苦痛に接する自分の心が疲れたと表現していたようです。（入所ご家族との会話より）

理事長より

これからは、被災者の心のケアに移っていくのでしょうか。だんだんと仮設住宅に移る人が増えます。仮設住宅に入居した人が閉じこもり状態にならないよう、見守り訪問やサロンの取り組みが重要になりますね。少子化の時代ですから、学校には余裕教室のひとつやふたつありそうなものですよね。もしなければ、菅原所長の言うように「校長室は無くてよい」ですね。



陸前高田避難所にて

災害派遣職員レポート

No.33 H23.6.25

陸前高田で活動を始めた えびな北高齢者施設 濱口職員とのメールのやり取りです。

昨日から竹駒小学校の仮設住宅での「青空サロン」の運営が始まりました！

実際に運営が始まるといろいろと気づくこともあり毎日杉山さんや川井先生、職能団体の方と話し合いながら頑張ってます。仮設住宅の方々はそれぞれ辛い経験をされていますがサロンでお茶を飲みながら話すことで笑顔もみれました！高齢者で独居の方もいるので見守りながらサロンに参加するなど外にでてきてもらえるように声かけもしていきます。

囲碁届きました!! ありがとうございます！

高田一中のサロンについては川井先生がもう動いてました。これからサロン開設にむけて取り組むようです。志水さんとは連絡とれました。とりあえず今日この後一中に行って話しを聞いてみようと思ってます！

お疲れ様です。こっちは昨日から梅雨に入り今日も1日雨が降ってます。

高田一中のサロンの経過ですが、高田一中の仮設住宅の3期工事が終了し、自治会長が決まり次第立ち上げる予定とのことでした。

志水さんには今行っているお茶会などは介護職員の間で引継、継続して欲しいと改めてお願いしました。ニーズもあり、早く動きたいのに自治会長が決まらないと動くことができないというのがもどかしいです！

青空サロンの方は今日で4日目ですが、順調に運営しています。もっと住民の方に参加してもらい運営にも関わってもらえるようにしていく予定です。

今のところこういった感じです。報告内容が少なくすみません。

菅原所長より

お疲れ様です。体調はいかがですか？ 蒸し暑くなってきていますが、大丈夫？

順調にことが進んでいる様子で、安心しました。住民参加は大事な事ですね。今後は、住民の皆さんが自分たちで運営するくらいの内容になっていくでしょうね。

それにしても、高田一中の志水さんたちと、陸前高田市でコラボしている感じが素晴らしですね。施設内にいるわけではないのに・・・!!!施設内よりも連携ができていたりして・・・? サロンで必要な物があれば遠慮なく言ってきてください。

では、残りの任務をしっかりと取り組んで、楽しんで来ててください。

陸前高田で活動中の えびな南高齢者施設 相原職員より

先週末、新たに四名の方が仮設に移られました。

そこで空いたスペースを移られた方を交えた憩いの場にしてはとの声でゆっくりくつろげるスペースを作ることになりました。ここは陸前高田第一中学校の中で主に体育館を避難所としている一般の家族とは別に、介護見守りが必要な方の避難所として、校舎内の教室を利用しています。

地域を問わずここに来られたため、ここで知り合った方達ばかりが隣同士の仕切のない空間で3ヶ月近くを共に過ごされて来ました。そのためか何時の間にか家族のような絆が生まれていように感じます。

今日も仮設に移られた方が遊びに来てくれました。やはり途端にみなさんの表情が明るくなり元気になります。この数ヶ月で築かれた絆を今後も大切にしたいとおもいます。

ここは避難所が閉鎖されるまでの限られた場所ですが、その間少しでも被災者した方の絆を繋ぐ力に成ってほしいと願っています。

同じく陸前高田で活動している えびな南高齢者施設 松下職員より

昨日までの動きですが、渡辺・川村両チームが収集した在宅、仮設住宅のニーズ調査が今はまだ何にも生かされていない為、これらを今後どう活用していくか、また今後安否確認を兼ねた見守りを継続するか否かで揺れ動いています。意思決定機関が（県社協、全社協、陸高社協ともうひとつ）3つ乃至4つある為、意見のすり合わせが難しいところです。何しろ皆が皆忙しく、一つの場で意見の調整ができにくいということと、皆が皆それぞれに思惑がある為でしょうか。しかし誰もが根底にあるのは今の陸前高田市をよくしたいという思いなので、それを忘れずに後半戦に臨みたいと思います。

今現在主に関わっているのはサロン関係です。以前報告したことと被るかもしれませんが、陸前高田市社協では青空サロンという常時設営型のサロン（井戸端会議の社交場のようなもの）と週一回開催の細根沢サロン（DSのようなもの？）の2つを立ち上げようと尽力しています。細根沢サロンの開催日は6月28日と私たちがいる間に日の目を見ることはないと思われませんが、青空サロンの方は物品の準備ができ次第始めますので明日にでも開催するかもしれません。慣れぬ仮設住宅、慣れぬ生活の中、少しでも皆様が和めるような場を作りたいと思っています。

陸前高田市の印象ですが、5月頭から派遣されていた山田町と比べて一番に感じたことは警察車両、自衛隊の姿が少ないということでしょうか。これは1か月という月日が過ぎたからかもしれません。また、明らかにボランティアの数が違うということです。GW中の繁忙期でも山田町では200人を超すばかりでしたが、陸前高田市では週末ともなると今でも600人を超す大所帯です。それでもなお「ボランティアの数が足りない（陸前高田市社協職員）」とのことなので被害は推して知るべしというところでしょうか。余談ですが、マスコミの数が多いいのは陸前高田市です。

海が一体どこにあるのというような場所にも津波の被害は言葉にならないほどの惨状です。微力ながら、この地で少しでも何ができるのかを考えながら残り1週間を務めたいと思っています。南の皆様、特に福祉総務課、在宅介護課の皆様、本当にご迷惑をおかけしておりますが、あと1週間ほどこちらで働かせていただきたいと思いますのでどうぞ何卒よろしく願いいたします。

餅田副所長より

今回の活動もカウントダウンが近づいてきました。次の方に何が残せるか、しっかり引継いでください。戦後の混乱期、闇市で本が大変に売れたという話を読みました。

人は生理的欲求だけで生きているわけではありません。それを踏まえてサロンをつくって行って下さい。また「混乱」は決して悪いだけではありません。

たぶん次のステップに進むため必要な過程です。それを認識した上で、議論に参加して下さい。あと、もう一息です。

陸前高田で活動中の えびな北高齢者施設 志水職員より

中心会のロゴ入りのジャンバーじゃない方の件は、どうなりましたか？

朝・夕方に地震があり、9時のミーティングの際に朝の地震時の動きについて、話をするが、夕方の地震の際に、逃げ道の確保等を出来ていなく、がっかりした。

雨の為、来客0人でした。最初の方に、社協をとうして来ていた人が、今度はフリーのボランティアで来てくれ、皆さん喜ばれていた。皆さんの事が、気になりこれからも、何人かフリーのボランティアで来るらしい。

菅原所長より

まだまだ、余震が続いているのですね。

安心して寝ていられない状況が続いているということですから、疲れが残るでしょうね。

また、暑くなってきて暑さで体調がやられてしまいます。

心配事が尽きないです。

災害派遣職員レポート

No.34 H23.6.29

陸前高田市に27日に入った西さんからさっそくメールです。(

無事、志水さんに引き継ぎを受けて、今準夜勤に入っています。

利用者さんの、志水さんに対する信頼の深さから、どれだけ志水さんが各々の利用者さんに親密に深く関わってきたかが、直ぐに伺えました。

こちらは和気あいあいと、凄く明るい雰囲気の中で被災地にいることを忘れてしまうほどです！

まずは、顔と名前を一致させるところからですね！引き続き、積極的に頑張ってください！

菅原所長より

志水さんが取り組んだ結果を被災地の方の様子から感じながら、西さんがまたさらに頑張ってくれることを期待します。積極的に！！と自分に言い聞かせているところが西さんらしいです。

同じく、陸前高田で活動している中心荘 杉山職員より

お疲れ様です。20日以降、日々青空サロンの運営や仮設住宅回りをしています。

岩手は梅雨に入り、雨の中でサロンを開催する日が多く、参加者がなかなか増えないのが現状です。しかし、竹駒小の仮設入居者は地域のブロックごとにまとまって入居している為、ご近所付き合いも大分多くなり、仮設住宅の雰囲気も良くなってきたように感じます。

また、他のボランティア団体が何をどんな企画を立てているかを事前に情報を入手し、仮設住宅入居者に情報提供をしています。今後、他の仮設住宅付近でサロンの開催を予定しています。

サロン活動が浸透するように、案内のチラシを配布する為、竹駒小の近くにある滝の里仮設住宅にも足を運び、一戸一戸訪問しました。滝の里の仮設住宅は地域のブロックごとの入居ではなく、色んなブロックの方が入居している為、「近所にお友達がいない。隣に住んでる人は知らない人だから…」という声が聞かれました。仮設住宅ごとで人柄や特徴が出ているようです。

明日は、新しい「お茶っこサロン」を開催します。明日以降、毎週火曜日に細根沢公民館を借りて実施する予定です。

三浦副所長より

杉山さん、えびな北の濱口さんが、一戸一戸の地道な訪問活動を通して、サロンやその他の活動まで情報提供してくれています。その努力によって、少しずつですが前に進んでいます。

青空サロンの様子(写真)、とても暑そうですが、和やかな時間が過ぎているようです。

今後も、必要な場所でサロンが展開できるよう取り組んでくれています。

お茶っこサロン、いいネーミングですね。とてもありがたいです。



災害派遣職員レポート

No.35 H23.7.4

えびな北高齢者施設 濱口職員からの報告です。

お疲れ様です。

今日は、これから毎週火曜日に開催する細根沢サロンの第1回目でした。今日は炊き出しを行い、49名の方が集まってくださいました。

今日のサロンで震災後初めて顔を合わせ、再会を喜んでいる方もいらったり、サロンの必要性を改めて感じました。

陸前高田で活動できるのもあと数日ですが、陸前高田の皆さんの為に最後まで精一杯頑張りたいと思います！

菅原所長より

元気にやっているようで安心しました。本当に、時間のたつのが早いですね。サロンも順調のようで・・・被災地のみなさん、お元気そうに見えますがやっと落ち着いた感じなのでしょう。しっかりと、助かった命を守る活動をしていかないとね。濱口さんは、どこでもやれる力のある人材だったと気づきました。相談業務の経験が無いこともあり心配していたのですが、余計な事でした。あと少し、被災地での役割を果たしてきてください。



災害派遣職員レポート

No.36 H23.7.4

えびな北高齢者施設 西職員の報告です。(7月2日)

夜分遅くすいません！岩手に来て、二度目の報告になります。
こちらの状況ですが、幾つかに分けて説明したいと思います！

・サロンについて→現在、視聴覚室には9名の方が避難され生活されています。

仮設住宅への入所、老人ホームへの入所がちょこちょこ決まり始めている状態です。
以前、こちらの視聴覚室に避難されていた方々に、基本的に前日電話で連絡し、都合が付けば（それぞれ仮設住宅で家族との生活が始まっているので）フリーな時間に割と自由に遊びに来ていただいて、日によっては昼食もこちらで一緒に召し上がっていかれたりする方もいます。
決まった時間にみんな呼んで…と言うよりは、それぞれ都合のつく時間に気軽によつてもらって、歓談してお茶してもらって…って感じです！

ただ、今日の代表者会議で話がありましたが、基本的には一中の方は、全体として7月末を目処に学校へ施設返還および本部スタッフの解散になるということです。とは言うものの村長さん曰く、希望地域の仮設に入れなかったり、皆が皆仮設住宅への移住は決まらずに、7月末に移住は恐らく完了しないであろう…という話です。

・求められている被災者の方の個々のニーズについて

岩手に来て3日、被災当初の時期から定期的にいらっしゃっているボランティアさんにたくさん助けていただき、個々の被災者の方に寄り添う時間をたくさん捻出させてもらっている現状です。信頼関係も徐々に出来てきており、当時の被災時の苦しみや、今の生活の不安さ等も話して下さるようになりました。リハビリやレクは、本当に充実しており、前任者の職員、ボランティアの方々が残ってくれた素晴らしいものがしっかり根付いています。

皆様意欲的で、リハビリ一つ取っても、個々で定めたメニュー（大体、朝昼夕）＋毎日PTの先生とのメニュー＋レク（体操、棒体操、ストレッチなど）＋日常生活動作と、こちらが圧倒されるほどの前向きっぷりです（笑）これは、やはり被災者の方々の前向きな姿勢はもちろんなのですが、被災者を取り巻く方々の継続的なケア（身体、精神面双方）の賜物ではないかと感じています！

そして今、求められている所は、被災地派遣前に所長やメールでも話題に上がっていた精神面でのケアになっています。もっと具体的に話すと、抽選などにより自分の家が決まり喜ぶ方がいる一方で、抽選に当たらず、私だけいつまでもここにいなきゃいけないんじゃないか…帰る家が見つからないんじゃないか…という不安にかられる方が出て来ています。今日、絆の丘各グループからリーダーを出し運営会議が実施されました。その中で仮設住宅への入居についての話が出て、被災者の数に対し満足するだけの数の仮設住宅が7月20日に完成予定なのですが、希望の地域を満たせるかどうかまでは分からず、だからといって無理して希望しない仮設住宅に入ら

なきやいけない訳ではないという話があり、他いくつかの話し合いの結果を、被災者の方、スタッフ全員で話し合い、また話し合った結果や質問を本部に投げ掛けることになりました！

何でもみんなで話し合っただけで決めて、自分と大澤さんはリーダーとしてみんなの意見、要望を吸い上げるパイプラインでいければいい…と思って頑張っています！

いくらでも文書が長くなってしまいうので、今日はここまでで報告にしたいと思います！

志の高いスタッフの中で、自分は中心会の代表として働かせてもらっていることを誇りに思います！皆様も体調には十分お気をつけ下さい！こちらは皆元気にやっています！

菅原所長より

西さんの心に勢いがあって、元気な様子が伝わってきます。良いですね。嬉しいですね。頑張ってくださいますね。その後、高田一中の地域でのサロンの立ち上げんお話はどうなったのでしょうか？進んでいるのでしょうか？西さんの報告でもわかるように絶対に必要なサービスになっていますね。何かしらの方法で、「絆の丘」を残せないのでしょうか？西さん頑張って発言してください。

えびな北高齢者施設 西職員 3回目の報告です。(7月2日)

お疲れ様です！3度目の報告になります＝

まず…佐藤善考さんの『Kのあなたへ』 パソコンが部屋に無いので、印刷して、みんなで読みました！「あの、達筆で団扇をプレゼントしてくれた人だ！」「踊って手品出来て、歌も歌える最高な人！」と、反響っぷりが芸能人顔負けの盛り上がりでした(笑)

それだけ大きなものを残されて来て…そして、確実にそれが今引き続き生きています！

志水さんのケア、そして佐藤善考さんのケア… 本当に素晴らしかったんだなって感じます！こちらの状況としては、今日一人の方が近くの老人ホームに移動となりました。

元々独居であったおばあちゃんなのに、別れ際は、もう皆号泣モードです。

住む場所が決まり、いろいろ不便な避難所から、また日常の生活に戻れるのは喜ばしいことではあるんですがね＝被災という形ではありますが、やはり人と人との繋がりって素晴らしなって感じます＝

あと、今日、絆の丘全体で火災想定避難訓練がありました！

先日の代表者会議で話があったので、これもスタッフ全員と被災者の方全員で話し合い、避難方法（ハンカチを口に当てる、リーダーが最後に戸締まり確認、点呼、各利用者の誘導職員の選定、車椅子使用者の選定、火災場所、避難経路の確認）を細かく決めて、スムーズに無事終えることが出来ました！

スタッフ、被災者さんの訓練に対する意欲的な姿勢も凄かったですし、中心会での細かな火災想定避難訓練をイメージしながら動けたので、こちらでも大いに役立ったことを報告します。

まさに、備えあれば憂いなしですね！

あと、今日は杉山さん、濱口さんに加えて現地入りした福田さん、藤村補佐が視察に来てくれました！こちらの現状を軽く報告し、これからも引き続きサポートして下さるとのことでした！

本当に心強いです！

最近、被災者さんとの信頼関係が、より確かなものになって来ており、洗濯頼まれたり、ゴミ出し頼まれたり、病院の付き添いを頼まれたり、洗濯場にて体育館に避難しているおじいちゃんに、小一時間雑談で捕まったり（汗）と、ある意味フルスロットルです（笑）

皆さん本当に温かく受け入れて下さり、絆の丘は笑顔が絶えません。毎日楽しく、あっという間に時間が過ぎ去ってしまいます！ ちなみに明日は、クルマの洗車の手伝いを頼まれているので、朝からまたフルスロットルです（笑）

この皆様の笑顔を何よりの活力とし、絆の丘のみんなが一日でも早く、安心出来る生活に戻れるように、明日からも全力投球で頑張っていきたいと思います！

いろいろあるのですが、前回同様キリが無いので、これで報告とさせていただきます＝

えびな南 大澤職員からの報告（7月3日）

6月20日から現地入りしました、えびな南の大澤です。

被災状況は報道で伝えている通りで、今私も前任者達を感じた事を思い日々を過ごしています。ただそんな状況の中でも皆さんが笑顔で迎え入れて下さったことをうれしく思っています。

現在介護が必要な高齢者は減ってきているのが現状です。自宅へ戻られたり、仮設住宅が決まり移られた為です。今も丁度仮設住宅へ移ることが決まり待機されている方がいらっしゃいます。ただ、仮設住宅も2年までの滞在ということなので、今後の不安が消えたわけではないようです。

一方まだ仮設への移転が決まっていない方もいて、『周りのひとが決まってるのに自分は…』という焦りや不安、孤独感をどのようにケアしていけるか自分の中で課題だと感じています。また身体のケア・心のケアともに私達の力では不足する部分もあります。なので他のボランティアの方や各都道府県から来ているスタッフとも情報共有したり連携を図りケアを広げていきたいです。

あと、東北もようやく梅雨入りしたようですが連日暑さが続いています。脱水症状や体調不良を起こさないためにも、水分はこまめにとって頂けるように工夫していきたいと思います！

餅田副所長より

お疲れ様です。元気に活躍している姿が目に見えるようです。

課題がたくさん見つかっていますね。次を担うボランティアさんに利用者一人一人の情報を伝えるとともに、残された課題もしっかり引継いでください。

残された時間は僅かですが、高齢者の皆さんが「生きていた良かった！」と思えるような、関わりを是非是非してください。

災害派遣職員レポート

No.37 H23.7.4

中心荘 杉山職員からの報告(7月2日)

昨日の午前中に、藤村補佐と福田職員に引き継ぎをしました。

主に私たちが、2週間行ってきたサロンや仮設住宅入居者の安否確認の内容と今後の活動の方向性等について、引き継ぎ書を基に引き継ぎを行いました。

青空サロンの様子ですが、私たちの帰る日が近付くのと共に、参加者が増えてきました。サロン終了の時間が過ぎていても時間を忘れて話している時もありました。サロンが少しずつ定着して来ていることを実感しました。

毎週火曜日に行われる細根沢サロンは、主に2つの地区にある仮設住宅入居者の方が集まりました。今週が初回だったのですが、50名近くの参加があり大盛況でした。

細根沢サロンに参加していた竹駒児協館の方から感謝の気持ちが込められた色紙を頂きました。

今後も地域の方が何気なく自然に集まれる場所となるよう、サロンを継続して欲しいと思います。

社会福祉法人 中心会チームさんへ



仲間と私達は
今も向う歩きはじめてました。

みなさんの

温かい

お遣りに

まして

支えて

いただきました。

心から感謝申し上げます

竹駒民児協

2023.6.28

災害派遣職員レポート

No.38 H23.7.5

陸前高田で活動しているえびな北 藤村補佐の報告です。

陸前高田に来て4日目となります。ここまでの報告を簡単に。

竹駒地区の仮設住宅にて青空サロンを運営すること引き継いで活動をしています。

青空サロンは仮設住宅入居者の方々が気軽に集って「お茶っこ」を飲みながら地域コミュニティとして機能できるような場所を目指しています。

青空サロンが開設して2週間経ち、住民の中にある程度定着して来た様子です。ある男性（杖使用・独居）は「ここがあるので、孤独にならずに済んでいる。来れる場所があることは、ありがたい」と話して下さいました。毎日、顔を出して「お茶っこ」飲んで、世間話をして帰っていくおばちゃん達もたくさんいます。学校が休みの土日は保育園から中学生まで入れ替わり立ち代り遊びに来てくれます。

しかし、徐々にですが問題点も出てきました。（竹駒仮設住宅には元々、竹駒地区に住んでいた方々が2/3で、それ以外の方々も1/3住んでいます）青空サロンは「竹駒地区の人ばかりで他地区出身者は参加しづらい。このままでは竹駒仮設の中で分断され孤立する人が出てくる。」という指摘が住民よりありました。これは青空サロンが目指しているところと全く反対のことです。また在宅酸素を使用しガンも患っている、という男性高齢者からは「話声がうるさくてたまらない。私を殺すつもりか。私は静かな場所でゆっくり休みたいのだ」とお叱りも受けました。色々な意見が出てくることは、青空サロンを運営していく上で歓迎すべきことですが今後、どの様に運営していくか大いに考えさせられました。

明日は、毎週火曜日運営の細根沢サロンがあります。このサロンは2つの仮設住宅地区を対象に運営していきます。毎週プログラムを替えて行く予定ですが、明日は「お茶っこ飲み会」です。全仮設住宅に訪問しチラシも配りました。どれくらいの方が集まってくれるのか、今から楽しみです。

理事長より

サロンが始まってみると、また新しい問題が出ていますね。

①竹駒地区住民と他地区から来た住民の融合をどう図るか。

②サロンを楽しみにしている人と「うるさい」と思っている人の立場をどう調整するか。

知恵の出し所ですね。

菅原所長より

中心会シスターズ（杉山・濱口チームが呼ばれていたそうです。）の若い二人の後任で藤村・福田のミドルチームがいじけていました。「若さには、かなわない・・・」って。

でも、「負けられないのでおじさん・おばさんのベテランの味で、取り組みます。」と言ってました。

陸前高田第一中学校避難所で活動中のえびな北高齢者施設西職員の報告です。

お疲れ様です！HP 確認しましたので、報告します。

高田一中地域でのサロンの立ち上げの進み具合について→先日、県社協の川井さんが顔出しに来てくれて、現在の被災者の方の悩みや現状、ADL、私達が関わっている内容などを報告した際に、サロンの進み具合についての話も聞きました。

高田一中地域は、まだ自治会が立っておらず、集会所は自治会が運営する為に社協だけで運営することは出来ず、自治会が出来次第、自治会と社協が連携してサロンを運営していってくれるとのこと。すでにだいぶ動いて下さっていて、サロン実施に伴う新たな職員も採用することになり、8月開始を目標に順次行っていくのでサロンに関しては任せて安心して下さいと話をしていただきましたので、自分達は絆の丘の方のケア（仮設に入った方も、都合のいい日はこちらに顔出ししに来てくれている。）に専念し、頑張っています。

現在、有志のボランティアの方が、お茶会の際に、遠い地域に移られた方の送迎を行っている（家族送迎あることもあり）ので、言うなれば個人での動きでもあり、送迎中何かあった際に何の保証もないのが怖いところではありますが…（組織的に動いている訳ではないので）

学校はあくまで、避難する為だけに借りている場所であり、今月末には学校側に返却するので、サロンはまた別の場所に展開していく形になります！ 以上です。

理事長より

第一中学校の地域でのサロン開設について、岩手県社協も努力してくれているようですね。

でもそれは、中心会の職員が「サロンが必要だ」というメッセージを発信したことも寄与していると思います。「何が必要か」に気づく力、それを発信する力の大切さですね。その力は「この人々を少しでも幸せにしたい」という情熱によって生まれるものですね。

菅原所長より

地域活動としてサロンを考えれば、自治会の立ち上げを待つ自主活動の形にしていきたいということがあるのでしょう。

生活ってやはり住民のものですから、自分たちに必要な物をどうやって作り上げていくのかを考えて行かないと継続されません。

弱い立場の方々が救われる内容に目が向けられる様にして行って欲しいと思います。

中心会の職員が、与えられたミッション以外で、あれこれ気付けることは発信する必要があります。自分たちができないということではなく、この人たちに必要かどうかの発信が良いと思います。

あと少しの期間ですが、しっかり状況をみて被災地の方々のために考えて行動してください。

災害派遣職員レポート

No.39 H23.7.7

陸前高田第一中学校避難所で活動中の真榮田職員の報告です。

真榮田職員はこの避難所に派遣される職員の殿軍（しんがり）です。

避難所の皆さんが最後の一人まで仮設住宅に移られるのを、しっかりと見守ってくれるでしょう。

高田一中の避難所へ来て3日が経過しました。様子を報告します。

到着後、大澤さんより引き継ぎを受けました。西さんも大澤さんもととても元気でした。

私が避難所入りした日から夜勤 準夜勤がなくなり、6時から20時までの勤務のみになりました。対象者の方はみんな明るくお互いのことを思いやり生活しているように感じました。これまで7人いた対象者が6日1組の親子が仮設住宅へ引っ越し5人になりました。私は、掃除・食事の手伝い・体操の手伝い・対象者と会話・仮設住宅への引っ越しの手伝いなどを行っています。

他人同士がひとつ屋根の下で仕切りもなく生活しているので、ギスギスしているだろうと想像していましたが、実際は皆さん明るくお互いを思いやり本当の家族の様に生活されています。

この様なコミュニティを作り上げることが出来たのは、高田の皆さんの明るさとボランティアの方を始めとする多くの方（もちろん中心会の前任の方）の力だと思います。

私自身もこの信頼関係を崩さないようしっかり引き継ぎ、また皆さんが少しでもスムーズに仮設住宅での生活に移れる様に、与えられた期間を精一杯がんばりたいと思います。

三浦副所長より

今までの中心会職員の働きかけによって、家族のような絆が育かれています。

これは、派遣に行った職員、そして施設に残ってカバーしてくれていた職員の力だと思います。本当にありがたいです。対象の方は徐々に仮設に移られて行きますが、残っている方たちは不安な気持ちもお持ちだと思います。どのようにその支えになるか、考えながら実行してくれると思います。

災害派遣職員レポート

No.40 H23.7.12

陸前高田で活動している えびな北高齢者施設 藤村補佐よりの報告です。

本日は、こちらに来て思いがけずお休みを頂きました。

前回の報告から一週間近く経ってしまいましたが第二報を送ります。

竹駒地区の青空サロンは順調に運営できているように思います。

前回の報告にあった「竹駒地区以外の利用者がいない」ということについては、利用者とは会話している中で他地区の方も利用していることが分かってきました。但し、地区毎に固まっての参加が多く、地区を超えての親睦が今後の課題かも知れません。「うるさい」と苦情を頂いた男性も、こまめに訪問し声掛けすることで気持ちがほぐれてきた様子です。

これらは、毎日仮設住宅の中を安否確認で声掛けしたりチラシを配ったりで訪問した結果だと思っています。

何より、お年寄りばかりでなく「うちのおばあちゃんに防水シートない？しょうがないから子供のおねしょシート使ってるのよ」等と子育て中の若いお母さんもサロンに情報を求めて顔を出して下さるようになりました。こういった情報交換の場として今後も機能していけるように仕組んで行きたいと思っています。

火曜日の細根沢サロンも前回同様、たくさんの参加者で賑わいました。

陸前高田社協は竹駒と細根沢をモデルケースにして他地区の仮設住宅でもサロンを立ち上げるべく準備をしています。

木曜日は長部地区で細根沢タイプ（週一回開催）のサロンを行いました。しかし、会場が現在も避難所として使っている所であった為、避難所生活者とサロン参加者の間に軋轢が生まれそうな状況となり今後の開催に課題を残しました。

こちらでの活動も残り実質2日となりました。竹駒の皆様と気心が知れた頃にお別れすることになりそうで心残りですが、次のチームにしっかり引き継げるように頑張ります。